



愛川ふれあいの村 今月の風景

2023年4月 自然のたより

春といえば桜を思い浮かべる方も多いのではないのでしょうか。代表的なソメイヨシノのイメージは、入学式の時期でしょう。しかし近年、開花時期が早まり3月中旬には満開を迎えることも多くなってきました。環境の変化に伴い、桜そのものの生態も変化しているようです。ふれあいの村ではソメイヨシノの他に、枝垂れ桜、八重桜、山桜と見られる種類も多く、またその期間も長く、まるで春の喜びをリレーしているようです。

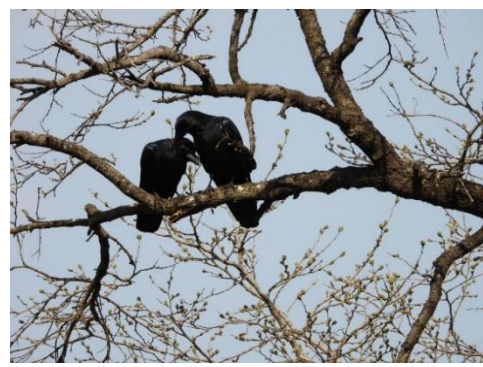
新しい学校、職場、環境と何かと新しい変化が生まれる春ですが、彩りある道を歩んでいきたいものです。(所長)



フデリンドウ



ヒゲナガハナバチ



ハシトガラスの花粉症治療



トウゴクミツバツツジ



サトザクラ



ウワミズザクラ



黄金色のハルニレ



リュウキュウサンショウクイ



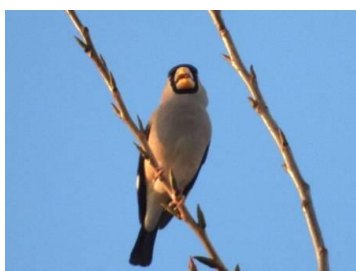
ビンズイ



アオゲラ



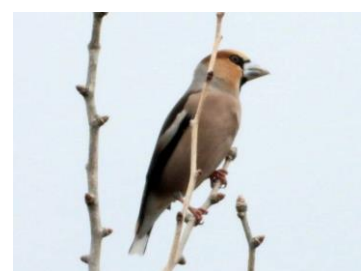
アオジ



イカルさえずる



北へ帰るシロハラ



シメ・くちばしの色の変化



ホオジロ・一筆啓上仕り候

トピックス ★春の夜★

春の夜は、冬には感じられなかった暖かい風を感じることができます。花が咲いた日には、夜風に乗って花のいいにおいもしてきますよね。最近、黄砂が飛んできていてテレビで報道され、夜風も強い日が多いです。冬の間は、冷たい風が強くと肌が痛く感じ、厳しい寒さを感じていました。春の夜の強風は、暖かさや花のにおいも混じり、ゴーという風の音も気持ちいいと思います。

春の月は、^{おぼろつき}朧月と呼ばれるように、霧や^{ちや}靄などに包まれてかすんで見えることがあります。靄は、気温差によって生まれます。霧や靄以外にも黄砂や花粉などでもかすんで見え、朧月となるようです。黄砂や花粉でかすんでみえる朧月よりも、霧や靄に包まれる朧月の方が風情があるように感じますよね。実際は全てまとめて朧月になっているのだと思いますが…

風を感じて月を見て、寒い冬には楽しめなかった春を楽しんでいただければと思います。ところで、「春の4Kに注意」といわれます。強風、黄砂、花粉、気温差にみなさん気をつけて、新年度を楽しんでいきましょう。(石川)



生き物 ★ツグミの里帰り★

今季、いつもより一ヶ月以上も遅れて村にやって来たツグミたち。数も少ないなああと、渡ってきた当初は思っていたが、その後は順調に仲間を増やして、多い日は、40羽ぐらいの群れがグラウンドを走り回っていました。最近は普段でも10~20羽が、キッキと鳴きながらグラウンド周辺のケヤキやサクラの木々を飛んでいます。時には群れで樹上に集まり、いつ旅路に出るか相談をしているようです。彼らの生まれ故郷はシベリア方面です。2000km程の厳しい長旅です。出発前は体重増加するらしいが、どうも、今年は、スリムなツグミが多く、ちょっと心配になります。ちゃんとご飯を食べてから出発しろよ、と言いたくなります。無事に到着するように祈るばかりです。(高梨)



旬 ★わらび(蕨)★

わらびはシダ植物の一種。コバノイシカグマ科ワラビ属里山や田んぼのあぜ道など日当たりの良い場所に群生しています。春の山菜の一つ。まだ、葉の開いていない若葉を採取します。新鮮なものにはうぶ毛が沢山付いていて、茎が太く短い物、首が上を向く前の物を選んで採取すると柔らかく美味しいです。わらびは、灰汁が強く生で食べると中毒を起こしてしまいます。充分灰汁抜きをしてから食べましょう。お浸し・天ぷら・卵とじなど春を感じる逸品となります。※灰汁抜きの方法→沸騰したお湯に重曹を入れ、そこにわらびも一緒に入れ沸騰寸前に火を止め冷めるまで置く。冷めたらきれいな水でゆすぐ。(菅原)



来月の見どころ
バードウィーク

春は駆け足でやってきます。たくさん花たちが一斉に咲き競いどの道を歩いても花が微笑んでるように見えます。少し視点を変えてみると、石垣の隙間にもカントウトタンポポを見つけて。隙間にもと驚くことがあります。

来月は、五月十日から十六日までの一週間が愛鳥週間です。冬鳥が去って夏鳥たちが渡来し野鳥の活動が盛んになってきます。村でも過去に、嘴の太いスズメがサクラの蜜が吸えなくて蜜のある所を食いちぎって蜜を吸う光景が見られました。ツバメやスズメが普通に観察できるよう願っています。

最近、気候変動と言われ地球の気温が上がってきています。自然を大切にしない人間の活動に大いに関係があると思います。そんな環境の中でも懸命に生きる植物や昆虫や鳥たちに対して私たちができる知恵を出し合い生き物たちの環境を守りたいと思います。バードウィークは鳥たちのコーラスを聞き自然の保全に努めよう。(吉田)